



Silver Lake Style Living



学生時代からの友人、建築家のネイト・レンズが設計した2人の新しいスタジオを家から望む。



勾配のある斜面に建つ家は天窗を積極的に取り、部屋の中の明るい配色を引き立たせている。



ローラの使用するスタジオ上階からの風景は、窓を全開にし、木だけで録取することもできる。



寝室には羊糸を使い鮮やかに仕上げられたクルウェル刺繍と、ローラ自身の刺繍作品が掛かる。

淡い色と光あふれるローラ・オーウェنزの家。

Laura Owens

アーティスト

Edgar Bryan

アーティスト



全体的に明るい色がちりばめられた居間とキッチンの上に、いました、ローラのお猿ちゃん。



浴室のタイルはローラお手製。家族生活に添えられる色にも絵画のカラーパレットが生きる。



作業机にはローラらしい色味の絵の具が並ぶ。天窗と南側の窓で自然光を目一杯取り込んで。



夫でアーティストのエドガーと愛猫チャーリーボーイ。2人には3歳の息子と1歳の娘がいる。

できるだけ大きなスタジオスペースを取るため、より広い敷地のこの家に引っ越してきたのが2003年。この家の前にもエコパークエリアに住んでいたローラとエドガーにその理由を聞いた。「この敷地には環境保護活動家が前に住んでいたため、特に大きな木が敷地にたくさん生えているの。ここに引っ越したのは2人のスタジオを建てるため。美大時代からの友人のネイトが設計してくれたけど、条件は広さと光をふんだんに取り込むこと。あとは生えている木を傷めないように配置に気がつけた。エコパークには友人がたくさん住んでいるし、歩いて食事に行けるといいう、LAでは貴重なエリア。この家に関しては、敷地の広さとエリジアンパークという大きな公園

が徒歩圏内だったというのが決め手になったわ」数年間の構想の後、家と同じ敷地にスタジオが完成したばかりのローラは、子供たちが寝ついてから作業することも可能になったという。また、床で作業することの多い彼女は、より色味の抑えられた落ち着いた素材を探し、廃材の再利用センターで手に入れた杉の木にさらに白塗料を塗り込み、特製の床を仕上げてもらったという。ローラとエドガーが住空間に求めるのはとにかく光。この家にももっと光を取り入れるため、天窗をいくつもはめ込んだ。いつもは下階部分に木を取り込む形で取り付けたデッキでもっばら家族の時間を過ごすことが多いという。「あとはくつろげるソファがあれば」と2人は顔を見合わせた。

ローラ・オーウェنز (右)、エドガー・ブライアン (左)
共に現代美術界で活躍するアーティストのパワーカップル。子供たちを連れて行ける公園も近くにあり、エコパークエリアに住み続けている。 <http://www.gavinbrown.biz/> <http://www.regenprojects.com>